

# 小児科

## スタッフ

医師名	役職	学会専門医・認定医
三木 和典	主任部長	日本小児科学会【指導医】【専門医】
有田 耕司	部長 感染対策室主任部長	日本小児科学会【専門医】 ICD 制度協議会【ICD】
藪田 玲子	部長	日本小児科学会【専門医】 ICD 制度協議会【ICD】
神尾 範子	医長	日本小児科学会【専門医】 日本小児神経学会【専門医】
中里 寿美子	医員	日本小児科学会【専門医】
髭野 亮太	専攻医	日本小児科学会会員

小児科専門医研修 3 年間を大阪大学小児科と連携して、最初の 2 年間(卒後 3, 4 年目)を当院小児科で一般小児科を研修し、最後の 1 年間(卒後 5 年目)を大阪大学医学部附属病院で、より専門的な疾患の研修に充てることを原則とする。

## 当院の特徴

当院小児科では、地域の中核病院として開業医とも病診連携を図り、急性感染症をはじめ、川崎病、気管支喘息、熱性けいれん・てんかん、低身長、甲状腺疾患、糖尿病、肥満、ネフローゼ症候群、腎炎、その他消化器疾患、心臓、血液疾患など幅広い診療活動を行っている。

平成 21 年度の小児科病棟の年間入院患者数は、1,011 人で、平均在院日数は 6.9 日とほとんどが急性疾患であるが、病棟には院内学級(小・中学校)が併設され、慢性疾患の長期入院にも対応している。しかしながら、疾病構造の変化と治療の進歩などの理由で長期入院患者さんが減っており、院内学級の在籍生徒数は年々少なくなっている。また、未熟児・新生児室(NICU)では、産婦人科と連携をとり、病的新生児の加療を行っている。平成 21 年度の新生児の入院数は 123 人であった。

外来は、月曜から金曜日まで、一般外来のほか下記の専門外来と臨床心理士による心理カウンセリング(月・水・木曜日、予約制)を行っている。平成 21 年度の年間外来受診延べ患者数(救急外来受診者数を含む)は、14,403 人(1 日平均 59.5 人)にのぼった。

[専門外来]

	火	水	金
午後	栄養発育外来 (三木) 第1を除く	神経外来 (神尾)	心臓外来 (藪田、小垣・非常勤) 第5を除く

[救急外来診療]

平成 20 年 4 月 1 日より、伊丹市・宝塚市・川西市・猪名川町の 3 市 1 町と兵庫県の共同出資により、当院の近隣に「阪神北広域こども急病センター」が開設され、広域センターによる夜間・休日の小児一次救急システムの整備が図られた。当院はその二次輪番病院として中心的役割を果たし、センターと連携を深めながら救急入院等に対応している。平成 21 年度は、阪神北広域こども急病センターからの二次搬送患者は 359 人におよび夜間・休日の救急外来受診患者の約 4 割を占めていた。また当院の後期研修医(専攻医)が月 1 回程度急病センターに出務して、小児一次救急の現場を担っている。従って小児救急疾患に対する研修がより充実したものになっていると考えられる。

[後期研修の成果]

本プログラムによって研修を行えば、研修終了時には小児科専門医の資格を取得できるだけの十分な臨床経験を積むことができることを保証する。また、希望があれば、当院で行う 2 年間の研修のうち、2 年目(卒後 4 年目)の 3 ヶ月間を大学等のより高度な設備の整った新生児・未熟児医療の専門施設や小児三次救急医療施設などでの院外研修を組み込めることも視野に置いている。